

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年4月30日現在

## 今月の重点活動

### ■えだまめ 高品質・安定生産に向けた栽培研修会を開催

4月9日から30日にかけて、管内7地区において、えだまめの栽培研修会が開催された。

農業普及課からは、えだまめの高品質・安定生産に向け、病害虫の対策や昨年実証試験で効果があった静電ノズルを用いた防除方法の紹介を行うとともに、昨年課題となった出荷量の平準化対策やGAPの現地調査結果、自己点検などの指導を行った。

参加した生産者は、栽培技術や出荷・販売の課題と対応策について多く情報提供されたこともあり、真剣に研修を受講していた。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【栽培研修会の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■春ブロッコリー 現地研修会で作業を確認し合う

岐阜市西部の生産者を中心に構成される春ブロッコリー研究会では、4月27日に会員ほ場にて現地研修会が開催された。

今年は長雨が続き、例年発生していない黒腐病等の発生が確認されている状況も踏まえて、今年の生育経過、今後の栽培管理について確認し合った。

農業普及課では、病気を拡大させないように早期防除と薬剤の選択について指導した。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【研修会の様子】

### ■アスパラガス 営農組合などにアスパラガスを導入推進

4月20日に、羽島市内の営農組合や農業法人を対象として、アスパラガスの新規栽培説明会が開催され、羽島市の各地域営農組合関係者など20名が参加した。

農業普及課から、アスパラガスのハウス立茎長期どり栽培のメリット、基本的な栽培技術とともに、栽培開始に必要な資金などについて説明し、ハウスでのアスパラガス栽培の取り組みを呼びかけた。参加者からは、ハウス栽培の管理方法や出荷先、必要経費などの質問が相次ぎ、関心の高さが伺える説明会となった。

今後は、アスパラガス栽培に前向きな営農組合などに対して、アスパラ塾への参加を呼びかけ、産地規模の拡大を図っていく計画である。

(園芸産地支援第一係・藤田 文彦)



【新規栽培説明会の様子】

## 売れる農畜産物づくり

### ■小麦 小麦の適期防除にむけて

羽島市では、6営農組織と個人が約60haの小麦（品種：タマイズミ）を作付している。生育状況を把握するため、JAぎふ営農担当者とともに、定期的に生育調査を行い情報の共有を行っており、4月17日には出穂状況も確認した。

4月20日に、羽島市営農組合連絡協議会が開催され、農業普及課から赤かび病防除のポイントについて説明し、生育調査の結果を踏まえた適期防除の実施を促した。

(地域支援第二係・山田隆史)



【小麦の生育調査】

## ■いちご 第1回産地戦略会議を開催

4月24日に、JAぎふ担当者とともに、第1回いちご産地戦略会議を開催し、いちごの産地規模が減少するなか、今後の産地の方向性を明確化するため、いちご産地の現状・問題点の洗い出しを行った。

そのなかで、現在生産されている4品種の絞り込みが必要ではないか、畝立て作業ができない生産者が増えており、不耕起栽培を検討すべきではないか、また、新規就農者の中には規模拡大志向者がいるが、経済的負担が大きく、規模拡大できないなどの意見が出された。併せて、本年度の園芸産地構造改革支援事業実施計画書の内容についても検討した。

農業普及課では、今後も定期的に産地戦略会議を開催し、問題点の洗い出しと対策案の検討をする計画である。

(園芸産地支援第一係・渡辺 新一)



【産地戦略会議の様子】

## ■柿 柿産地改革プラン戦略会議の開催

4月24日に、JAぎふ本店園芸販売課・営農企画課と柿産地改革プラン戦略会議を開催し、岐阜市、本巣市、瑞穂市の柿産地のあり方について検討した。

今後は、園芸産地構造改革支援事業推進のため、毎月1回の定例開催とし、各振興会ごとの課題に合わせた支援方法について検討していくこととしている。

(園芸産地支援第二係・鷺見 彩子)



【戦略会議風景】

## 戦略的な流通・販売

### ■だいこん GAP現地調査を実施

4月10日に、岐阜市則武・鷺山地内の12名のだいこん生産者宅を対象に、JAぎふだいこん部会の内部監査委員及び外部委員(JAぎふ、岐阜市、JA全農岐阜、農業普及課)によるGAP現地調査を実施した。

回を重ねるごとに、点検項目の達成率は少しずつ向上してきてはいるものの、農薬保管庫に鍵をかけていない、毒物・劇物の表示シールが貼付されていない、農薬散布時に防水服、ゴーグル、ゴム手袋を着用していない、農薬散布後のタンク、ノズルなどの洗浄をしていないなど問題点も確認された。

農業普及課では、今後とも栽培研修会や役員会などを通じて、GAPの意味・意義を説明し、達成率の低い項目が改善されるよう指導を行っていく計画である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【現地調査後の検討の様子】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■本巣地域水田農業担い手連絡協議会 経営安定を目指して

4月22日に、本巣地域の水田農業担い手を対象に、園芸作物講習会を開催した。これまで本巣地域では、水田裏作にブロッコリーや加工用たまねぎ等が作付けされてきたが、米価下落等の影響で園芸品目への関心が一層高まり、講習会の開催となった。

農業普及課からは、野菜品目の作型と経営収支について、JAからは、加工用キャベツの契約栽培についてそれぞれ説明した。本年度は、加工用キャベツ・たまねぎ、スイートコーンの栽培面積の拡大が見込まれている。

(地域支援第三係・横田 京子)



【営農組織による野菜収穫】